

第3四半期業績の開示に伴う Q&A 要旨

Q1: 2007年12月末の「サブプライムローン」に対するエクスポージャーを教えてください。

A1: 2007年12月末の「サブプライムローン」にかかる当社のエクスポージャーは、決算短信（参考）のとおり、12億円であり、中間期とほぼ同額である。

Q2: 2007年12月末の「米国モノライン」に対するエクスポージャーを教えてください。

A2: 決算短信（参考）のとおり、米国モノラインを単独の参照企業とするクレジットデリバティブ売建の想定元本が34億円ある（モノラインを複数の参照企業の一つに含むクレジットデリバティブについては、劣後部分（免責金額）があるため、基本的に当社エクスポージャーはゼロ）。

このほか、モノライン保証債に対する保証等が27億円、モノライン保証債への投資が132億円あるが、これらは「原債券」と「当該債券を保証しているモノライン」の両方がデフォルトとなった場合に、当社に支払い責任または実現損が発生するもの。

Q3: 2007年12月末の、金融保証受再・クレジットデリバティブ全体の引受状況を教えてください。中間期説明会でも開示いただいているが、どのように変化しているか知りたい。

A3: 2007年12月末の金融保証受再総額は7,472億円、クレジットデリバティブの想定元本総額は6,225億円と、中間期の数字とほとんど変わっていない。それぞれの内訳も中間期とほとんど変化がない。

Q4: 2007年12月末のクレジットデリバティブ全体の評価損はいくらか。

A4: 2007年3月末時点の時価評価額からの減少額で、損益計算書に影響する金額は約60億円。

Q5: 金融保証受再全体での保険金支払（支払備金を含む）はいくらか。

A5: 極めて低い水準で支払いも発生したが、それを上回る金額の回収があったため、2007年12月末時点での保険金は、支払ではなく約1億円の受取となっている。

以上